

そもそもイエスと指導者たちとの間に起こった問題は、(ヨハネ五章で)安息日にベトサタの池で38年もの間病で苦しんでいた人を癒やした事が発端でした。現代の言葉で言い換えると医療行為を休日に行ったということですよ。

医療関係の仕事に直接携わっていないひとたちもこの度の感染症による医療崩壊がもしも自分が感染し病院にお世話になる立場になると何を意味するのかと想像してみれば、ずいぶん物事を分かるようになりました。医療はもちろんスーパーマーケットから小売店に至るまで、わたしたちの命の営み、日常生活の土台を支えている仕事の大切さをです。そういう生活の基盤から物事を考えると、社会全体を守るための休日の確保、その規則は必要不可欠であるということとはだれしもよく分かるでしょう。

そして紀元前の社会であろうとも奴隷という身分制度による苦難の経験をおしてイスラエルは、後に神から与えられた十の戒めをおして、休日は何物にも代えがたい時間であること、その他の戒めすべては、決しておかしはならない聖なるものであると世代を超えて伝えてきたのです。

それを忽然とガリラヤから現れたイエスが、何のためらいもないかのように振る舞うのです。しかも大勢の支持する人たちが彼の後に続き、ガリラヤではなくエルサレムにまでやって来て神殿で教えはじめたのです。指導者たちは、社会全体を揺るがす彼の言動に、放っておいてはいけな

と画策をはじめたのです。そうこうしているうちにイエスを陥れるためには格好の事件が起こりました。

ある女が姦淫の現場で捕まったのです。安息日の掟を破った上に、姦淫の女に対して無罪を宣告するとすれば、イエスを支持するひとたちも、さすがに掌を返して離れ去っていくでしょう。当時のユダヤ教では、偶像崇拜、殺人、姦淫は決して犯してはならない戒律だったので。だから姦淫の罪で捕まった女はイエスを窮地に陥れる格好のネタになるわけです。

3 そこへ、律法学者たちやファリサイ派の人々が、姦淫の現場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、4 イエスに言った。「先生、この女は姦淫をしているときに捕まりました。5 こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうかお考えになりますか。」

6 イエスを試して、訴える口実を得るために、こう言ったのである。

「先生、この女は姦淫をしているときに捕まりました。こういう女は石で打ち殺せと、モーセは律法の中で命じています。ところで、あなたはどうかお考えになりますか(4-5)」と問い詰めるように迫ります。イエスの方でも、指導者たちの真意は、自分を陥れる目的であることは十分に理解できたでしょう。さすがに即答することができないのか、イエスはかがみ込んで、地面に何かを書き始めました。

いったい何を書き始めたのか、想像するしかありません。

…指導者たちが女を捕らえて石で撃ち殺せと訴えている掟は、

レビ20:10 人の妻と姦淫する者、すなわち隣人の妻と姦淫する者は姦淫した男も女も共に必ず死刑に処せられる。

申22:24 その二人を町の門に引き出し、石で打ち殺さねばならない。その娘は町の中で助けを求めず、男は隣人の妻を辱めたからである。あなたはこうして、あなたの中から悪を取り除かねばならない。

女を訴える人たちの頭にはこの言葉だけが響いていたのでしょう。しかしよく考えてみると「姦淫をしているときに捕まりました」と言うのに男は捕まえることなく、女だけが捕まえられたのです。ここに男がいないのは、なぜか？考えられるのは、一、男が逃げた、あるいは映画「パッション」にあるように、二、女が素性を知られている娼婦だったので、どうしてもよい存在として女だけを貶めようとした、のです。

どちらの規定も女は人の妻、または婚約者なので、女が娼婦の場合、少し規定から外れるのです。男がいないというところをもって、女は娼婦であるといってもよいでしょう。女が娼婦ならば、彼女をつけ回していれば、必ず現場を押さえることもできるでしょうし、当時のユダヤ社会ならば、そういう女を、石で打ち殺しても咎める人もいないかもしれません。

石で打ち殺され抹殺されてもだれも悲しむ者がいない女、彼女の命は、男たちが体の欲望と良心を切り離して沸き起

この罪のために投じる財貨で成り立っているのです。だからまた彼女の体と良心もまた、他ならぬ自らにより切り離されているのです。

その女に死を宣告しようとしている指導者たちは、自らに存在の価値があり、社会を代表して法による正義を実現すべく認められた者たちなのです。

イエスは周囲の喧噪に埋もれるようにかがみ込んで地面に何かを書き記しながら、ひとびとの愚かさに深く身を沈めつつ価値なき貶められた者として見上げるように向き合いつつながら、いつしか自分も、今まさに石で打ち殺されようとしている女とおなじように憎悪や侮蔑を受けて、その体もまたいつしかおなじようにさらし者になるかもしれないと予感したことでしょう。

指導者たちは、しつこく問い続けるのでイエスは立ち上がり、「あなたたちの中で罪を犯したことはない者が、まず、この女に石を投げなさい」と言われました。これは意外な言葉だったはずですが、イエスが律法をねじ曲げて答える想定して捕らえる策略だったのに、「女に石を投げなさい」とおっしゃるとは…、ただし「罪を犯したことはない者が」と条件をつけられたのです。この言葉をめぐり一歩踏み込んだ言葉がローマの信徒への手紙にあります：

ロマ2・1 だから、すべて人を裁く者よ、弁解の余地はない。あなたは、他人を裁きながら、実は自分自身を罪に定めている。あなたも人を裁いて、同じことをしているからです。

この言葉により律法に通じたひとたちですから、次の聖書の言葉を思い出したかもしれません。そして事実彼らは罪を清めるために沐浴（洗礼）を行っていたのです。

詩 143・2 あなたの僕を裁きにかけないでください。御前に正しいと認められる者は／命あるものの中にはいません。

コハ7・20 善のみ行つて罪を犯さないような人間は／この地上にはいない。

イエスがかがみ込み、指で地面に何か書き始められた。7 しかし、彼らがしつこく問い続けるので、イエスは身を起して言われた。「あなたたちの中で罪を犯したことはない者が、まず、この女に石を投げなさい。」8 そしてまた、身がかがめて地面に書き続けられた。9 これを聞いた者は、年長者（長老）から始まって、一人また一人と、立ち去ってしまい、イエスひとり、真ん中にいた女が残った。

だれも罪に定める者はいなくなった。

いったい女を罪に宣告する戒めとは何だったのだろうか？

出 20・2 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隸の家から導き出した神である。…13 殺してはならない。14 姦淫してはならない。」

昨年、生田教会に招いた鈴木義秀先生のお話を覚えていらっしゃるでしょうか？イスラエルの民はエジプトの奴隸から、救い出した神として、現れ、戒めを与えるのです

先の出エジプト記の意識は、あなた方を奴隸の家から導き出した神である、だから、あなた方は殺さないだろう、あなた方は姦淫をしないでだろう。救われた者として堅く信頼し、救いの道を歩む者として戒めを喜んで受け入れるのです。

今やイエスは女に対して救い主として、言葉を与えるのです。女、救いの戒めを喜んで受け入れ、人生を再び歩み始めたことでしょう。

10 イエスは、身を起して言われた。「婦人よ、あなたたちはどこにいるのか。だれもあなたを罪に定めなかったのか。」11 女が、「主よ、だれも」と言うとき、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めません。行きなさい。これからは、もう罪を犯してはならない。」